学校番号	2004

令和８年度　情報科

教科	情報	科目	情報テクノロジー	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「情報テクノロジー」（実教出版株式会社）						
副教材等	「トレース Python」（実教出版株式会社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この科目は、情報テクノロジーに関する知識と技術を身に付け、情報テクノロジーに関する課題を発見し解決する力、適切に情報テクノロジーを活用する態度を養うことを目的としています。
１年次の内容を発展させて、情報産業を支える情報テクノロジーの基礎を学び、目的に応じたデータの処理・加工ができるよう、データベースシステムや各種のアプリケーションソフトウェアの活用を演習や実習を通して体験します。
コンピュータが好きで、特にテクノロジー系に興味がある生徒向けの科目です。

2　学習の到達目標

(1) 地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う情報産業に携わる者に必要な知識と技術を身に付けるようにする。
(2) 情報テクノロジーに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。
(3) 自ら学び情報システムの構築、運用及び保守などに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	情報テクノロジーについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報テクノロジーの利用、開発及び管理などに関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	情報テクノロジーの安全かつ効率的な利用、開発及び管理を目指して自ら学び、情報システムの構築、運用及び保守などに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	ハードウェアの仕組みと活用	・コンピュータの構造と内部処理 ・周辺機器とインタフェース ・ハードウェアによる情報セキュリティ技術 ・情報システムを構成するハードウェア	a: ハードウェアの働き、課題解決に必要なハードウェアの組み合わせと情報システムの関係を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 b: ハードウェアの操作、運用及び保守や情報セキュリティに関する課題を発見し、ハードウェアの機能の活用を通じて創造的に解決できる。 c: ハードウェアについて自ら学び、課題解決に必要なハードウェアの組み合わせのシステム的な提案や保守及び情報セキュリティ対策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	単元テスト 制作実習	単元まとめレポート 制作実習	授業ふりかえり
	ソフトウェアの仕組みと活用	・オペレーティングシステムの仕組み ・応用ソフトウェアの仕組み ・ソフトウェアによる情報セキュリティ技術 ・情報システムを構成するソフトウェア	a: ソフトウェアの操作や設定の概念、情報システムと各種ソフトウェアの関係を理解するとともに、これらを最大限活用できる環境の構築と設定を行う技術を身に付けている。 b: ソフトウェアの操作や設定に関する課題を発見し、ソフトウェアの活用を通じて情報セキュリティを確保した上で創造的に解決できる。 c: ソフトウェアの操作や設定について自ら学び、ソフトウェアの選択や活用とそのための環境設定及び情報セキュリティ対策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	単元テスト 制作実習	単元まとめレポート 制作実習	授業ふりかえり
後期	情報社会の進展と情報テクノロジーとの関わり	・情報社会を支える情報テクノロジーと情報システム ・これからの情報社会と情報テクノロジー	a: 情報テクノロジーや情報システムの目的と機能及び社会との関わりについて理解するとともに、情報社会を支える情報技術を身に付けている。 b: 情報社会の中で使われている各種の技術やシステムに関する課題を発見し、情報テクノロジーの活用を通じて合理的かつ創造的に解決できる。 c: 情報テクノロジーについて自ら学び、技術の利用、開発及び管理などに主体的かつ協働的に取り組んでいる。	ｲﾍﾞﾝﾄの企画と実施	ｲﾍﾞﾝﾄの企画と実施 単元まとめレポート	ｲﾍﾞﾝﾄの企画と実施 授業ふりかえり

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度